

<p><i>DIRECTSTAR</i></p> <p>バージョンアップ手順書</p>

- 【対応機種】 Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS
【ソフト名】 Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS ファームウェア
【著作権者】 NEC アクセステクニカ株式会社
【対象ユーザ】 上記の装置をご使用のお客様
【転載条件】 転載禁止

目次

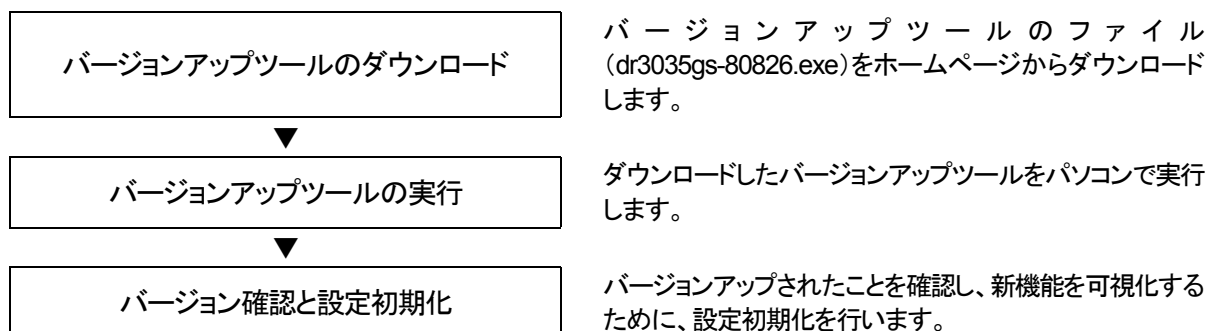
	ページ
はじめに	2
Aterm DR30F/GS, Aterm DR35FH/GS ファームウェアバージョンアップ手順 (Windows®編)	3
(1) バージョンアップツールの実行	3
(2) バージョン確認と設定初期化	5

はじめに

本書では、Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS のファームウェアバージョンアップ手順について説明します。

【ファームウェアバージョンアップ手順】

Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS ファームウェアのバージョンアップは次のような手順で行います。



【ファームウェアバージョンアップ時のご注意】

- 当社は、本ソフトウェア製品の仕様または使用不能から生じる一切の損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません)に関して一切の責任を負いません。たとえ、当社がこのような損害の可能性について知らされていても同様です。
- バージョンアップする時に、ADSL 回線の電話コードを外す必要はありません。
- バージョンアップ開始後、完了の表示が出るまで絶対に装置本体の電源を落とさないでください。途中で電源を落とすと装置本体のファームウェアが破損し、復旧不可能な状態となる場合があります。
- バージョン情報の last stored の後に表示される日付・時刻情報は、バージョンアップされた日付・時刻が記録されたものです。本情報は本装置が内蔵する時計機能に基づき付与されますので、日付・時刻の設定が正しくないと、バージョンアップされた日付・時刻が実際の時刻と異なることとなります。バージョンアップした日付・時刻を正確に記録するには、バージョンアップ作業を行う前に、予め本装置の日付・時刻を現在時刻に合わせてください。

・Windows® は、米国 Microsoft® Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

・Windows® Me は、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system の略です。

・Windows® 98 は、Microsoft® Windows® 98 operating system の略です。

・Windows® 95 は、Microsoft® Windows® 95 operating system の略です。

・Windows® XP は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。

・Windows® 2000 は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。

・Acrobat® Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

・その他の各会社名および各製品名は、各社の商標または登録商標です。

Aterm DR30F/GS, Aterm DR35FH/GS ファームウェアバージョンアップ手順 (Windows® 編)

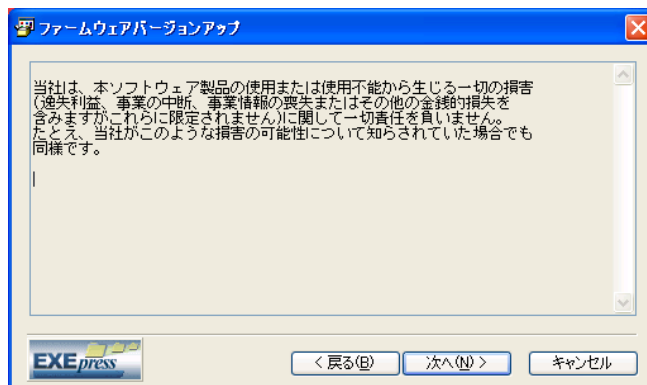
(1) バージョンアップツールの実行

ここでは、Windows®XP を例にします。(Windows®95/98/Me、Windows®2000 も手順は同じです。)

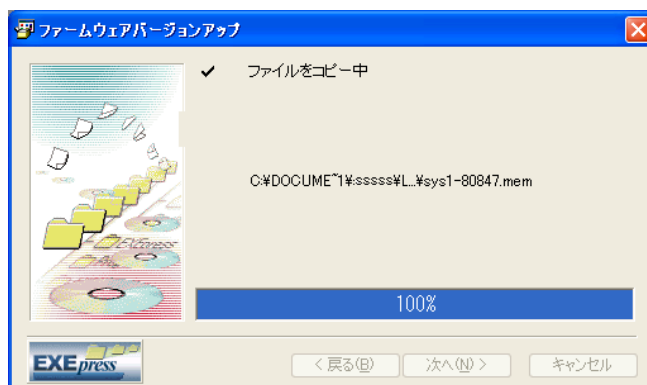
- ① エクスプローラ等でバージョンアップツールのプログラムファイル(dr3035gs-80826.exe)を実行すると、インストーラが起動します。[次へ(N)]ボタンをクリックします。



- ② ソフトウェアに関する注意事項が表示されますので良く読んで、[次へ(N)]ボタンをクリックします。



- ③ バージョンアップの準備が開始されます。



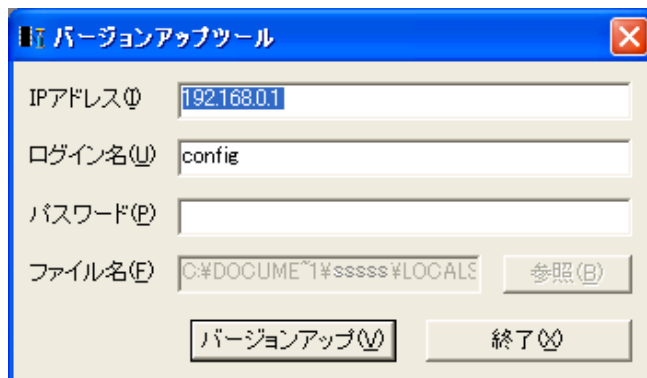
- ④ バージョンアップの準備が完了すると右のウィンドウに変わります。本装置の IP アドレス、ログイン名、パスワードを入力します。本装置の初期値は、

IP アドレス : 192.168.0.1
ログイン名 : config
パスワード : (無し)

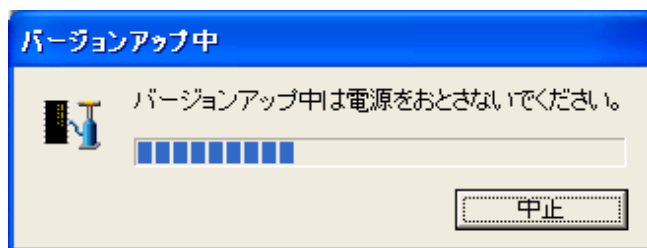
ですが、変更している場合は、変更後の値を入力します。[バージョンアップ]ボタンをクリックするとバージョンアップを開始します。

【注意！】

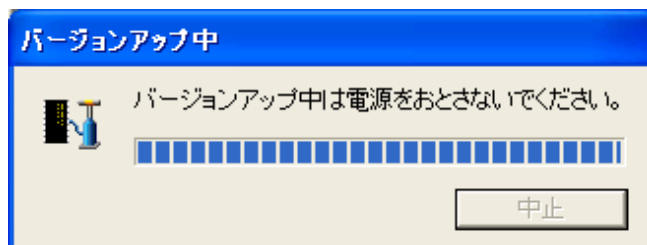
バージョンアップ開始後、完了の表示が出るまで絶対に装置本体の電源を落とさないでください。



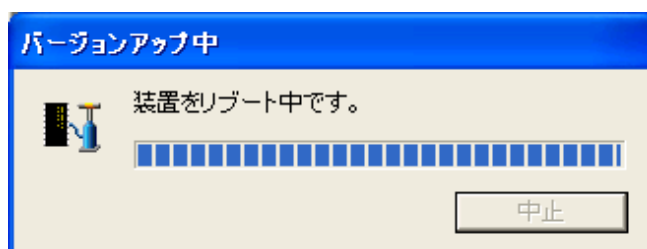
⑤ バージョンアップが開始されます。



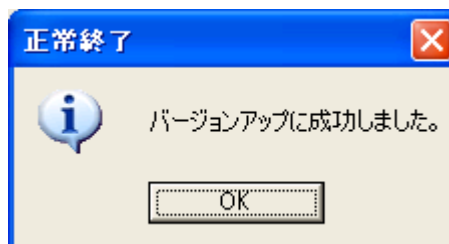
⑥ ファームウェアの転送が終わると、ファームウェアの書き換えが行われ、バーグラフが右いっぱいまできたままの状態が30秒~1分程度続きます。



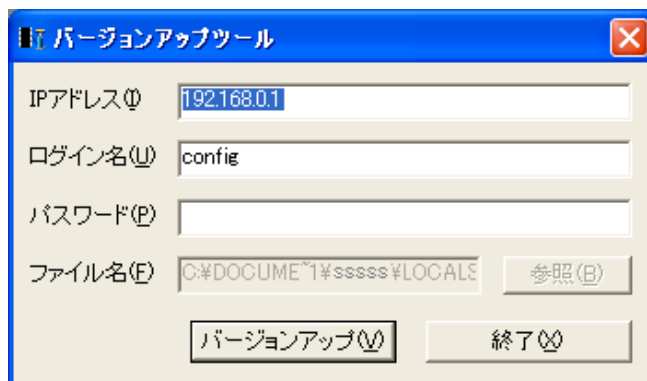
⑦ ファームウェアの書き換えが完了すると、自動的に装置をリポートします。装置リポートがかかると、装置本体のLINEランプが一旦消灯します。LINEランプが点滅開始すればリポート完了です。



⑧ 装置リポートを行うと、正常終了ウィンドウが表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。



⑨ [終了]ボタンをクリックして、バージョンアップツールを終了します。

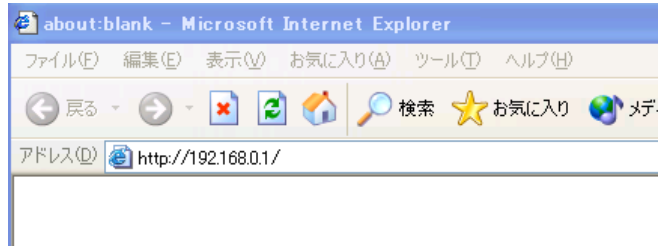


(2) バージョン確認と設定初期化

ここでは、Windows®XP を例にします。(Windows®95/98/Me、Windows®2000 も手順は同じです。)

- ① Webブラウザで、本装置のURL(アドレス)を指定して、本装置にアクセスします。

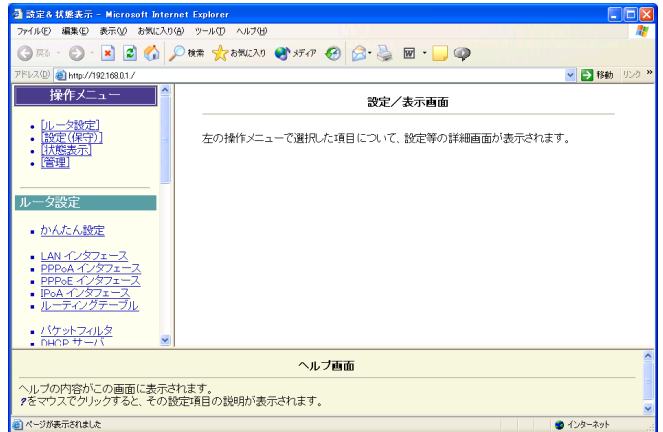
IP アドレスが初期値の 192.168.0.1 の場合、URL は http://192.168.0.1/ ですが、IP アドレスを変更している場合は、その IP アドレスに従って URL を指定してください。



- ② ログイン名(ユーザ名)とパスワードを要求されるので、ログイン名(ユーザ名)=config、パスワード=本装置に設定しているパスワード(初期値は空)を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



- ③ 本装置の「設定／表示画面」が表示されます。

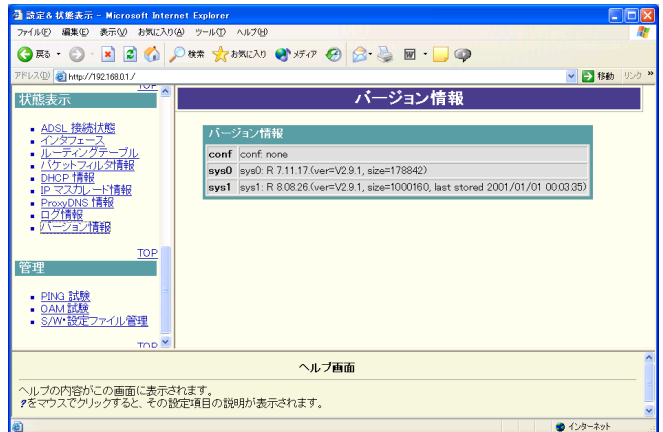


- ④ Webブラウザで、操作メニューの「状態表示」→「バージョン情報」をクリックします。「sys1」の欄が

「**sys1:R 8.08.26**」

となっているのを確認します。

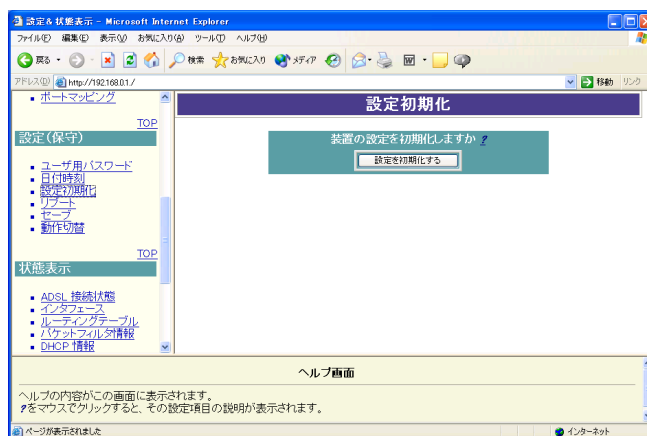
バージョン情報の last stored の後に表示される日付・時刻情報は、バージョンアップされた日付・時刻が記録されたものです。本情報は本装置が内蔵する時計機能に基づき付与されますので、日付・時刻の設定が正しくないと、バージョンアップされた日付・時刻が実際の時刻と異なることとなりますので予めご承知おきください。



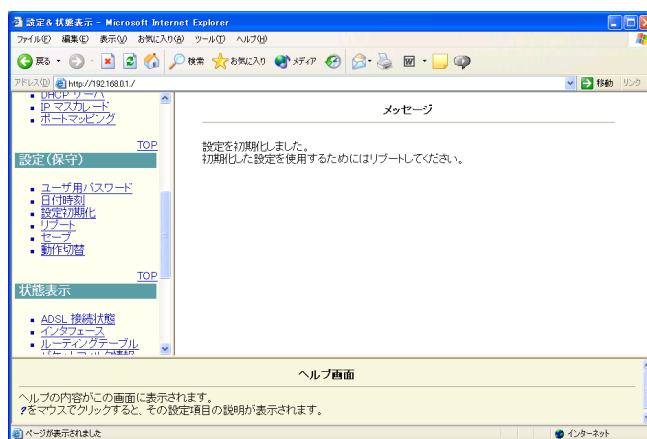
- ⑤ 旧バージョンのファームウェアでセーブされた設定が残っていると、新ファームウェアの新機能が使用できないままとなります。そのため、一旦設定初期化を行います。操作メニューから「設定初期化」をクリックし、「設定を初期化する」ボタンをクリックします。

[注意!]

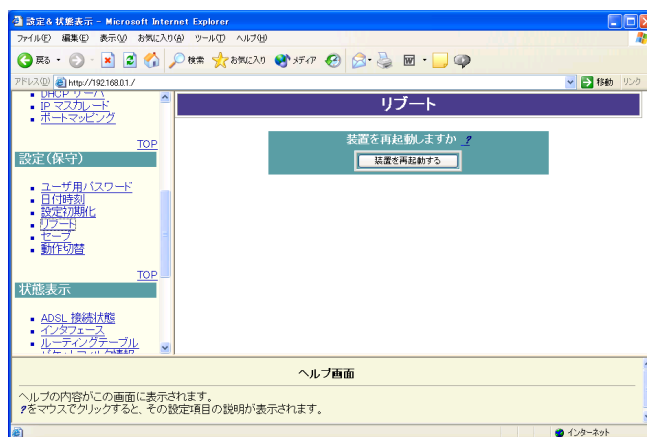
「設定初期化」を行うと、PPP のパスワードを含め、全ての設定が初期化されますので、再度設定をやり直す必要があります。



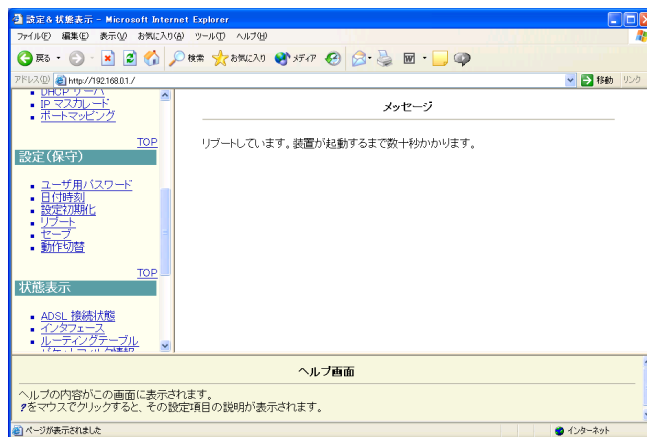
- ⑥ 設定初期化が完了すると、右のような画面表示となります。



- ⑦ 操作メニューの「リポート」をクリックし、メインウィンドウの[装置を再起動する]をクリックすると、数秒後装置が再起動を開始します。



- ⑧ 装置本体の LINE ランプが一旦消灯し、LINE ランプが点滅開始するまで待ちます。



- ⑨ Web ブラウザで、再度、<http://192.168.0.1/> にアクセスします。設定が完全に初期化されていますので、スタートガイド・詳細ガイドに従って、設定を行ってください。

本装置の IP アドレスを変更していた場合は、設定初期化によって 192.168.0.1 に戻ります。必要に応じて、パソコンの設定を変更してください。

本装置をリブートすると日付・時刻が初期化されます。スタートガイドにしたがって、日付・時刻を再設定してください。

